

魅力ある学校づくり地域協議会通信

発行 魅力ある学校づくり地域協議会支援会議
宇都宮市教育委員会事務局生涯学習課

1 平成28年度「第2回地域コーディネーター研修会」の報告について

- ・ 標記研修会(県教委, 市教委, 魅力ある学校づくり地域協議会支援会議など共催)が, 平成28年11月21日に県総合教育センターで, 121名の関係者の方の参加を得て開催されました。
- ・ 当日は, 地域コーディネーターや学校支援ボランティア, 学校関係者等を対象とした講演会の後, 各中学校区など近隣の学校同士のグループに分かれ, グループ協議を行いました。

第1部 講演「地域とともにある学校づくり」の推進に向けて

講師 政策研究大学院大学客員教授 貝ノ瀬 滋(かいのせ しげる) 氏

- 学校・家庭・地域が連携した教育について, 例えば, 子ども達が24時間のうち約8時間を過ごす学校で挨拶をするよう指導しても, 残りの約16時間を過ごす家庭・地域で挨拶がなされないと習慣として定着しにくく, 教育効果が薄い。このようなことから, 学校・家庭・地域が連携し, 同じ方向を向いて子どもの育ちに携わることが大切である。
- 日本は, エネルギー資源は乏しいが, 人材(子ども)という宝を持っている。現在, 人材育成は大部分が学校任せになっていると指摘されているが, 学校教職員の数は, 減少傾向が続く中, さらに昨今の学校現場では, 特別支援学級の児童増加や外国籍の児童増加などへの対応が必要となってきた。
- 学校教職員の増員に向けた働きかけも行われているが, その間にも子ども達は成長していく。このような中, 学校だけに人材育成を任せて良いのか今一度考えてもらいたい。学校・家庭・地域が協力して子どもを育てていくことが必要である。
- 学校と地域がパートナーとして連携・協働するために, 学校は「地域に開かれた学校」から一歩踏み出し, 地域でどのような子ども達を育てるのか, 何を実現していくのかという目標やビジョンを地域住民・保護者と共有し, 地域と一体となって子ども達を育てる「地域とともにある学校」へと転換していく必要がある。
- コミュニティ・スクール(学校運営協議会制度)は, 学校と地域住民・保護者が力を合わせて学校運営に取り組むことが可能となる「地域とともにある学校」に転換するための仕組みである。この制度を導入することにより, 地域ならではの創意や工夫を生かした特色ある学校づくりを進めていくことができる。



第2部 グループ協議 「今年度の状況について振り返り、今後の取組みについて考えよう」

① チェックシートでの振り返り

地域協議会の活動状況や地域連携教員と地域コーディネーターの連携状況についてのチェック項目を記入する「地域連携活動チェックシート」を、地域連携教員と地域コーディネーターがペアとなって相談しながら記入していきましました。チェックシートでの振り返りを通じて、地域コーディネーターと地域連携教員のコミュニケーションが図られ、また、今年度の自分達の活動を振り返る機会となりました。



② グループでの話し合い

各学校での特徴的な取組みや成果や課題が明確になった取組み、小中が連携した取組みなどについてグループ内で話し合い、情報共有を行いました。その後、グループ内で話し合った内容の中から、他のグループにも伝えたい内容を発表し合い、全体で共有しました。グループでの話し合いを通じて、近隣の学校との情報交換が図られ、参加したそれぞれの立場で、今後の活動のヒントを得る機会となりました。



2 活動紹介 「城山中央小学校魅力ある学校づくり地域協議会」

○ 城山中央小学校魅力ある学校づくり地域協議会では、普段、学校や家庭で体験できないことを地域の力で体験させたいという思いから、夏休み中の学校施設を活用した学校宿泊体験「学校へ泊まろう！」や放課後の校庭を活用した焼きいも体験「焼きいもやけるかな？」を毎年実施しています。



○ これらの活動は、地域協議会会長や地域コーディネーターをはじめ、地域協議会委員、学校関係者、保護者、中学生など多くの方の協力によって実施されています。学校を拠点としたこれらの活動を通じて、参加した大人と子どもが交流し、多様な人間関係（ナナメの関係）の中で子ども達が活動する機会となっています。



3 活動紹介の募集について

本通信にて、掲載させていただける活動を募集しています。活動の情報提供や、活動を取材させていただける場合は、宇都宮市教育委員会事務局生涯学習課（電話：632-2674）までご連絡下さい。